



<バイオ医薬・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2024年5月1日

バイオ医薬セクター バイオ指数のヒストリー

バイオ医薬セクターを長期の視点で俯瞰できるよう、牽引してきた企業、新薬及び政策の動向などについて改めて紹介したい。

■ 2010年代のバイオ医薬セクターの株価変動要因

2011年までに認可ラッシュを迎えていた抗体医薬など、画期的な有効性を示すバイオ医薬品の市場が巨額化するステージを迎え、完治困難だったC型肝炎に対する著効薬の上市などにより、バイオ医薬セクターの株価は2015年にかけて急上昇した。同セクター株式の代表指標である Nasdaq Biotechnology Index (NBI) は、1993年11月1日を基準日として200でスタートしたものである。2009年末に843.57だったNBI指数は、2015年7月20日のザラ場高値4194.87まで5倍近くの上昇を遂げた。

2012年：抗体医薬品市場の隆盛により、1,000億円以上の年商を誇ったバイオ医薬品(ブロックバスターといわれる)が40品目になった(適応症としては関節リウマチやがんなど)。米国食品医薬品局(FDA)による新薬の承認数が39件へと増加、審査当局による審査手続きの加速が恩恵となった。

2013年：12月にギリアド・サイエンズのC型肝炎著効薬・ソバルディがFDAによって認可され、その後爆発的な売上を示した。同社はインフルエンザ(タミフル)、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)治療薬に続いてC型肝炎向けでも救世主となった。抗体薬物複合体(ADC)技術を用いた乳がん治療薬カドサイラ(ロシュ子会社ジェネンテック)が米FDAに認可され、その後のADC医薬(第一三共のエンハーツなど)隆盛の端緒となった。

2014年：小野薬品とプリストル・マイヤーズ・スクイブによる免疫チェックポイント阻害(2018年ノーベル賞受賞)作用によるがん治療剤・オプジーボが日本と米国で発売された。当初の国内薬価に基づく年間薬剤費3,500万円(体重60kgの場合)という高薬価が話題となった。

ナスダック バイオテクノロジー指数の推移 (2009/12末~2024/4/25)



(出所)ブルームバーグのデータを基にキャピタル アセットマネジメントが作成

免責事項

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社 (CAM) が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



2015年9月：ヒラリー・クリントン氏により、薬代の規制案が示された。2016年米国大統領選挙に向けた民主党の予備選挙活動中、民主党からの本命候補による発言として株価に影響を与えた。

2016年11月：トランプ大統領が勝利した(ヒラリー・クリントン氏よりも、薬価下げに関して強硬ではなかったため、締め付けはあるもののどちらかといえばバイオ医薬業界にとってポジティブ)。

2019年：M&A(合併・買収)活動において特に大型案件が活発化した(武田薬品によるシャイアー買収の460億英ポンド<1月に完了>、ブリストル・マイヤーズによるセルジーン買収の740億米ドル、アッヴィによるアラガン買収の630億米ドル、ファイザーによるアレイ買収の114億米ドルなど)。

■ 2020年代のバイオ医薬セクターの株価変動要因

2019年12月に中国の武漢市にて最初の発症者が確認されてから数か月のうちに、新型コロナウイルス(COVID-19)がパンデミックといわれるような世界的流行になった。感染拡大、死亡例、ロックダウン(都市封鎖)などの動きが株価に多大な影響を与えた。バイオ医薬業界においてはワクチンの開発進展や実用化が株価変動の原動力となった。

2020年12月：ファイザーと独ビオンテックが開発したワクチンがFDAから緊急使用許可を受けた1週間後、モデルナのワクチンもFDAの緊急使用許可を取得した。

2021年8月：新型コロナウイルスに対するワクチンの実用化に成功したモデルナや独ビオンテックの株価がピークをつけた。モデルナの株価は2019年末比でピーク時に25.4倍に、独ビオンテックの米預託証券(ADR)の価格は同約5.7倍にまで急騰した。

2020年11月：リジェネロンの抗体カクテル治療薬がFDAより緊急使用の認可を得た。許可に先駆けて当時のトランプ大統領に投与された10月初旬のリジェネロンの株価は2019年末比約1.5倍であった。

2021年6月～：ノボ・ノルディスクのウゴービが肥満症適応でFDAからの認可を取得、2024年3月にはFDAから心血管リスク低減への適応拡大を承認された。また、2022年5月にマンジャロの商標名で糖尿病への認可を取得していた同一成分につき、ゼップバウンドという別名称で2023年11月にイーライリリーがFDAの認可を肥満症の適応で取得した。欧米において2社の肥満症治療薬の利用が爆発的に広がった。2社はNBI指数の対象外であるため、2社の株価が絶好調であることはNBI指数に反映されていない。

2023年3月：ファイザーがADC技術を誇るシーゼンの買収を発表した(430億米ドル)。確度の高まった新薬パイプラインや基盤技術を獲得するためのM&A活動は依然として活発である。

2023年10～11月：ファイザーが新型コロナウイルス関連の売上高見通しを引き下げ、2023年の業績予想を下方修正した。モデルナも2023年第3四半期の大幅な赤字(36億米ドルの四半期純損失)を発表し、2024年の売上高見通しを当時のアナリスト予想(60億米ドル)を下回る低水準(40億米ドル)で示した。

新型コロナウイルスを気にしない日常に戻り、人々はワクチンやバイオ医薬による恩恵を意識しなくなったことや、肥満症治療薬への人気のシフトも、昨今のバイオ医薬の株価動向に影響していると思われる。

以上

免責事項

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社(CAM)が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。